

50代女性の娯楽・レジャー活動への関心と家族への帰属意識との関連
 ○熊谷伸子* 芳住邦雄** 荻村昭典*
 (*文化女大・院 **共立女大)

【目的】様々な情報が溢れているのが現代社会であると言い得る。団塊の世代と称される50代の女性達の行動意識が注目される。これらの世代を調査対象者として、娯楽およびアウトドア活動でのライフスタイルを探ることを本研究は目的としている。家族への帰属意識との関連を考察して現代の家族のあり様についても検討する。

【方法】1998年8月に50歳前後の女性469名を対象に郵送による質問紙調査法により実施した。質問項目は、基本的属性、興味のある娯楽・アウトドア活動に関する23項目、衣服購入動機に関する2項目である。前述の23項目においては「関心がある」から「関心がない」までの4段階尺度で回答を求め、主成分分析を用いて解析した。

【結果】ファッション、ダイエット、パソコン等23項目の関心についての50代女性の評価得点を用いて解析を行ったところ、4つの主成分が抽出された。第1はアウトレジャーなど行動的な分野の重視。第2はガーデニングなどの女性らしさを生かせる分野の重視。第3は恋愛、アルバイトなど世間との関わりを求める分野の重視。第4は英会話など自己洗練分野の重視。これらの主成分を衣服購入動機により被験者を分類して、平均値を求めたところ有意水準5%で第1主成分に、有意水準10%で第3主成分において有意差が認められた。家族との関係が衣服の購買動機になっている人は、行動的な分野や世間との関わりを求める分野には興味をもっていないことが明らかになった。子どもの有無で被験者を分類した場合は、各平均値には有意水準15%で第2主成分に、有意水準10%で第4主成分に有意差が認められた。また、子どもがいる人は、女性らしさを生かせる分野に興味を示し自分自身洗練の分野には興味を持っていないことが明らかになった。